

# オミナエシ オミナエシ科

オミナエシは秋の七草の一つとして、古くから人々に親しまれてきた植物ですが、土地の造成や近年、草地の手入れが行われなくなったこと、園芸用の採取などが原因でたいへん少なくなっています。

## オミナエシの特ちょう

高さは1メートルほどあり、茎は細くてかたく、上の方でいくつかの枝に分かれています。茎の上部に4ミリメートルほどの小さい黄色い花を多数つけます。葉のふちにはあらいのこぎりのような歯があります。能登地方の海岸には葉がぶ厚く、光沢のある「ハマオミナエシ」が生えていますが、これも「オミナエシ」に含めます。



CD-ROM版「石川県の絶滅のおそれのある野生生物」より抜粋

## 調べやすい時期（花期）

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

## 県内の分布

県内に広く分布しています。しかし最近では、土地の造成や園芸用の採取、草かりをするなどの草地の手入れをしないため、とても少なくなっています。

## 見つけやすい場所

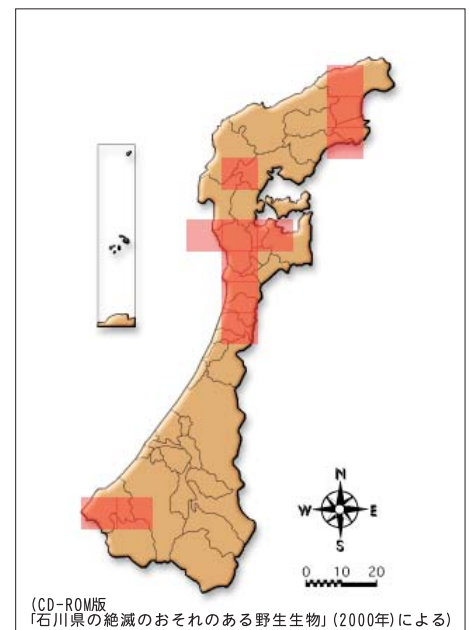
日当たりのよい山野の草原にまとってはえます。よく手入れされた明るい林の中や、林の縁などをさがしてみましよう。

## 見分け方のポイント

まちがいやすい種類に「オトコエシ」と「ハクサンオミナエシ」があります。

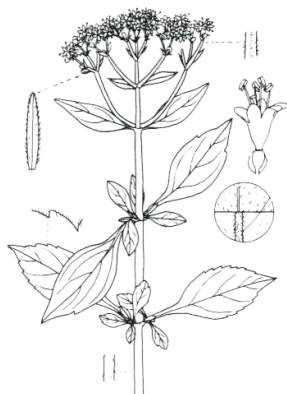
「オトコエシ」は花の色が白色なので区別が付きます。

「ハクサンオミナエシ」は高山にはえ、葉が手のひらのような形をしているので区別できます。



(CD-ROM版「石川県の絶滅のおそれのある野生生物」(2000年)による)

オミナエシ



・花びらの色は黄色

オトコエシ



・花びらの色は白色

ハクサンオミナエシ



・葉が手のひらのような形